



ズワイガニ日本海系群（B海域）

ズワイガニは我が国周辺では日本海、オホーツク海、および茨城県以北の太平洋沿岸に分布し、本評価群はこのうち本州日本海沿岸の新潟県以北秋田県以南に分布する群である。本海域の漁獲量や資源量等は漁期年（7月～翌年6月）の数値を示す。漁期は10月～翌年5月。



図1 分布図

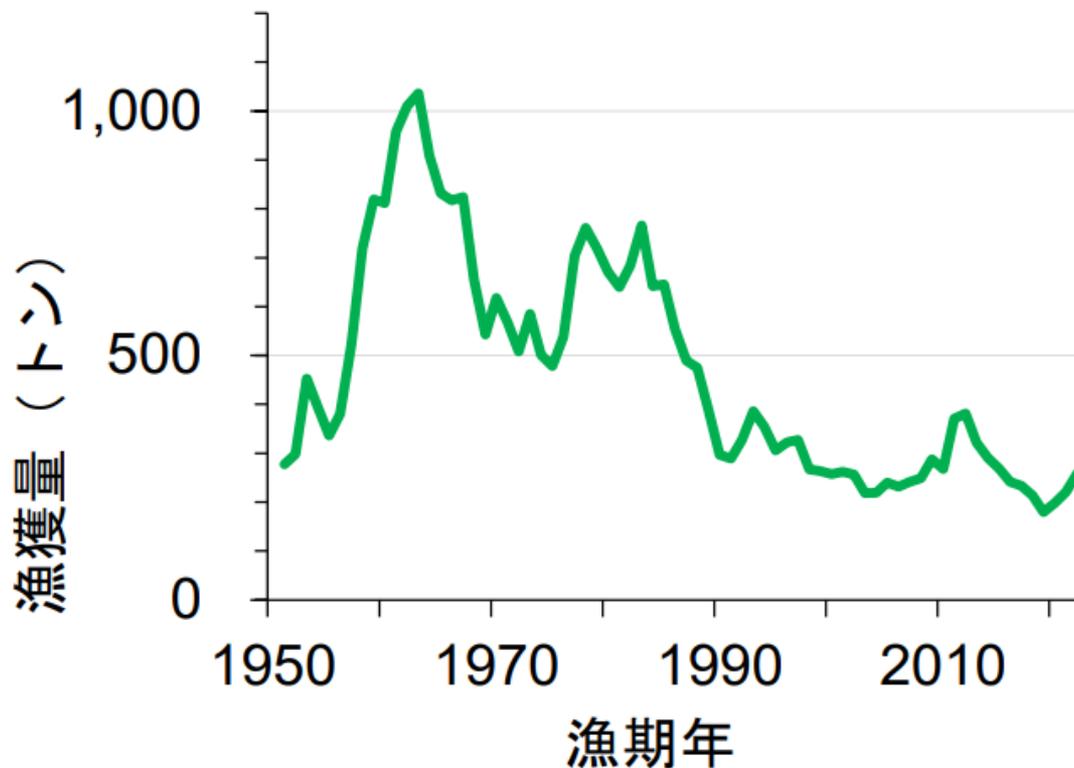
秋田県～新潟県沖の大陸棚斜面および縁辺部（水深200～500m）に分布。

産卵場は分布水深帯の浅い方にあり、各地に点在。

島、天然礁がある急峻な海域で、漁場は分布域に比べごく狭いと考えられる。



漁獲量の長期的変化



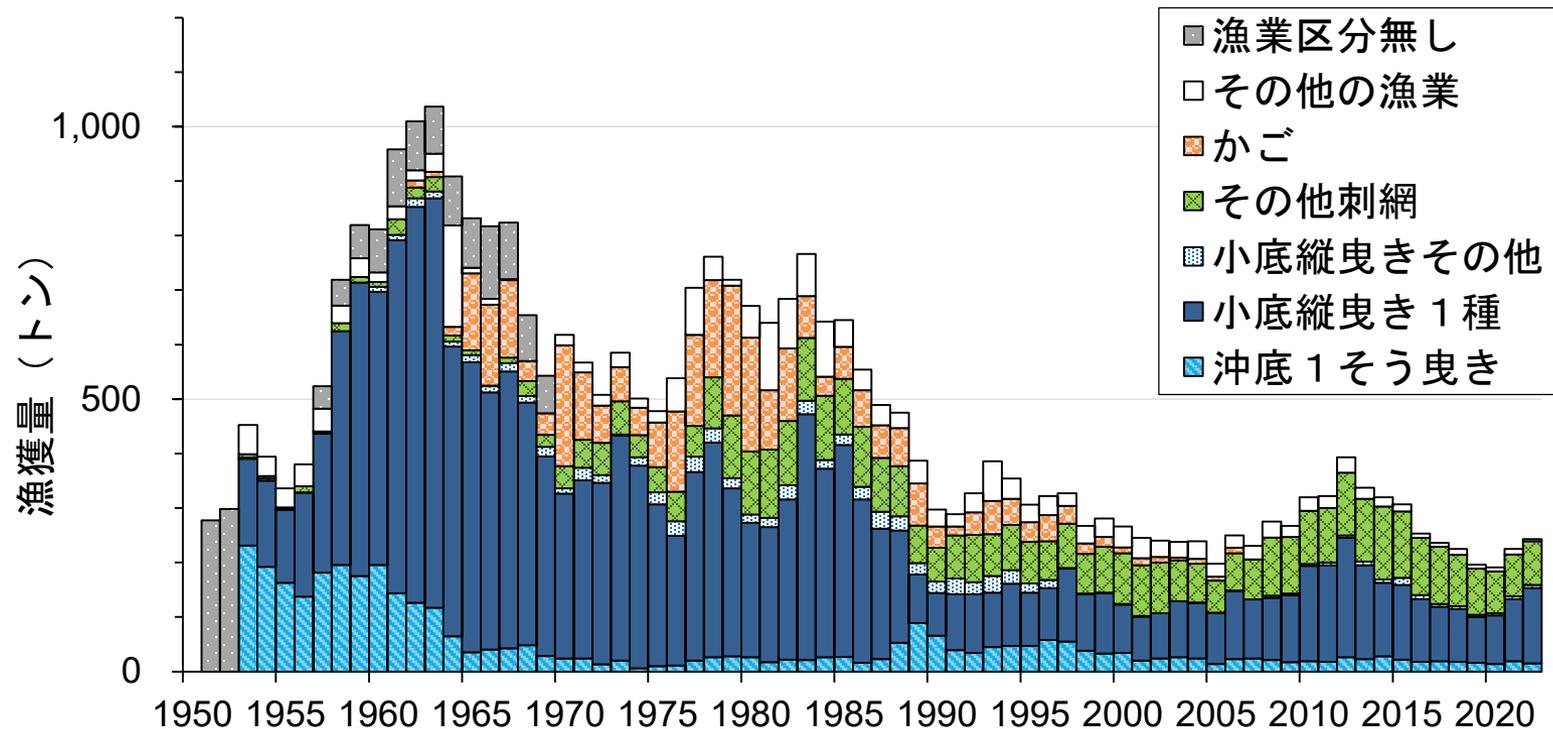
(1998年以前は暦年の値)

図2 漁獲量の推移

漁獲量には、1960年代に約1,000トン、1980年代に約800トンのピークがみられる。その後は減少し、1990年代以降は200~400トンで推移している。2022年漁期の漁獲量は258トンであった。



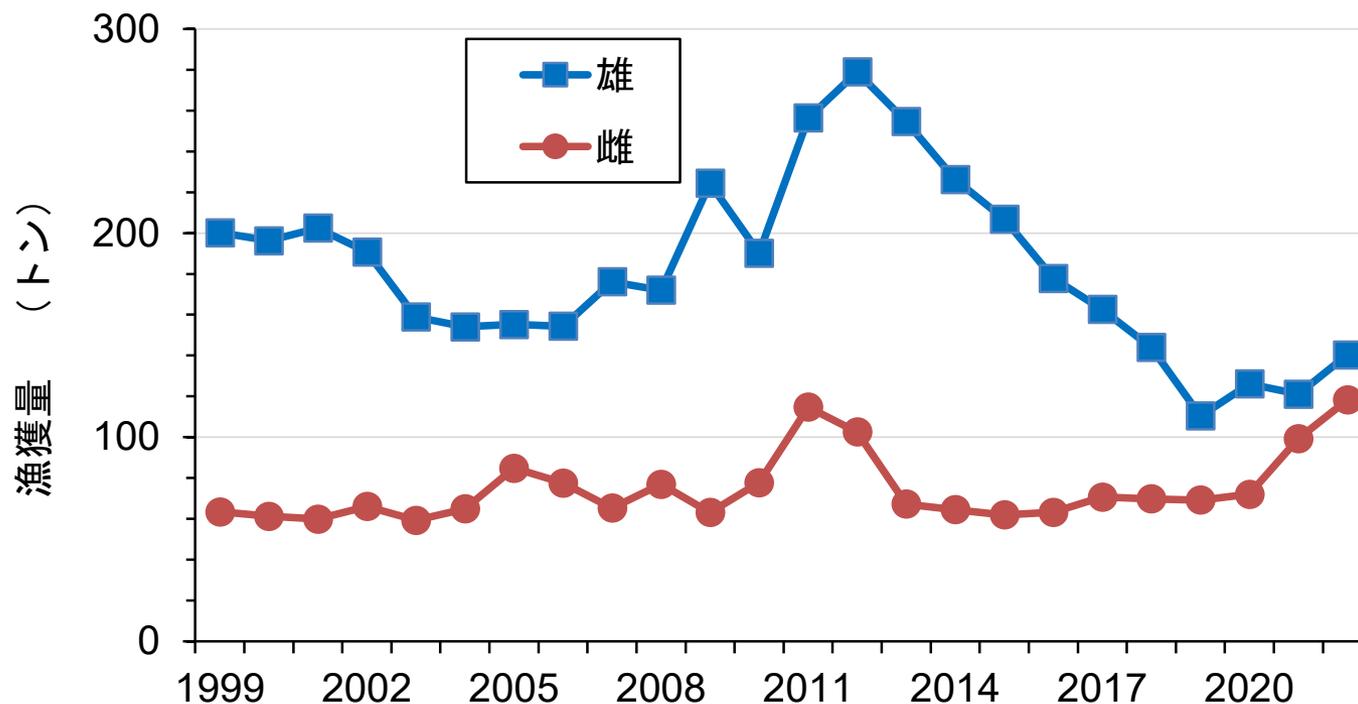
漁獲量の長期的変化



詳細版図3-1. ズワイガニの漁業種類別漁獲量 (暦年)



漁獲量（雄、雌）

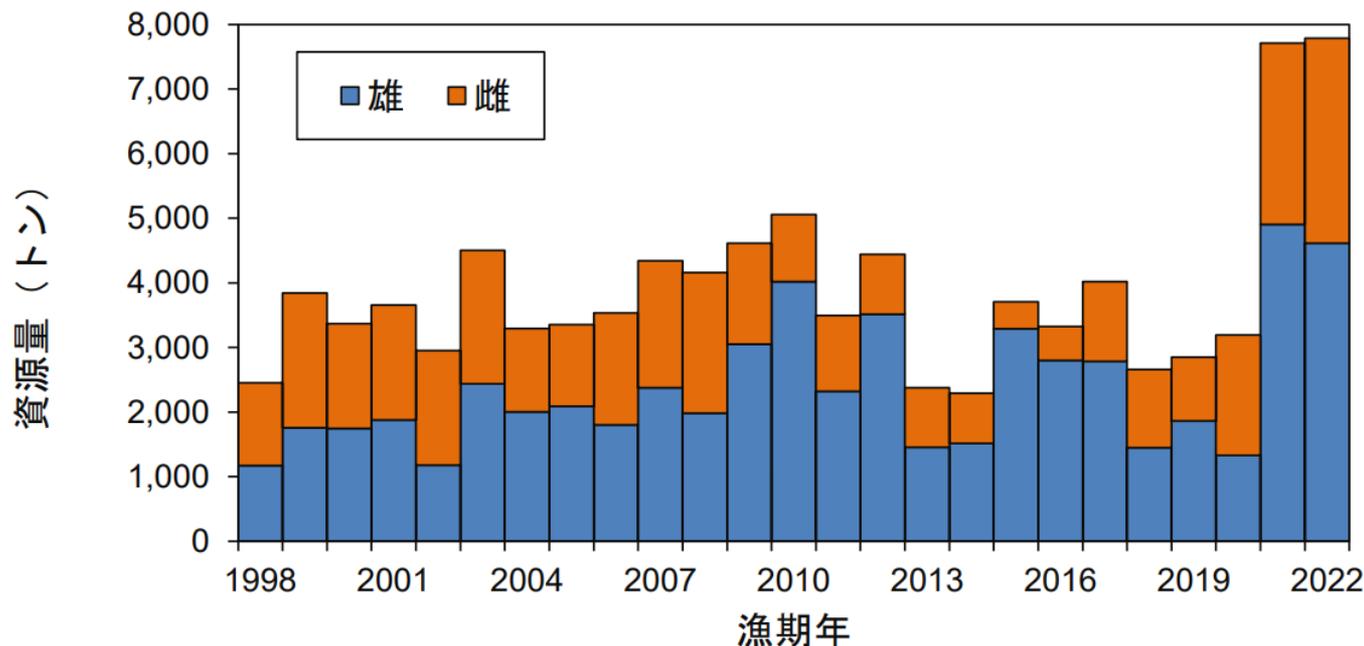


詳細版図3-2. スワイガニの雌雄別漁獲量（漁期年）

* 漁期年（7月～翌6月）



資源量（雄、雌）



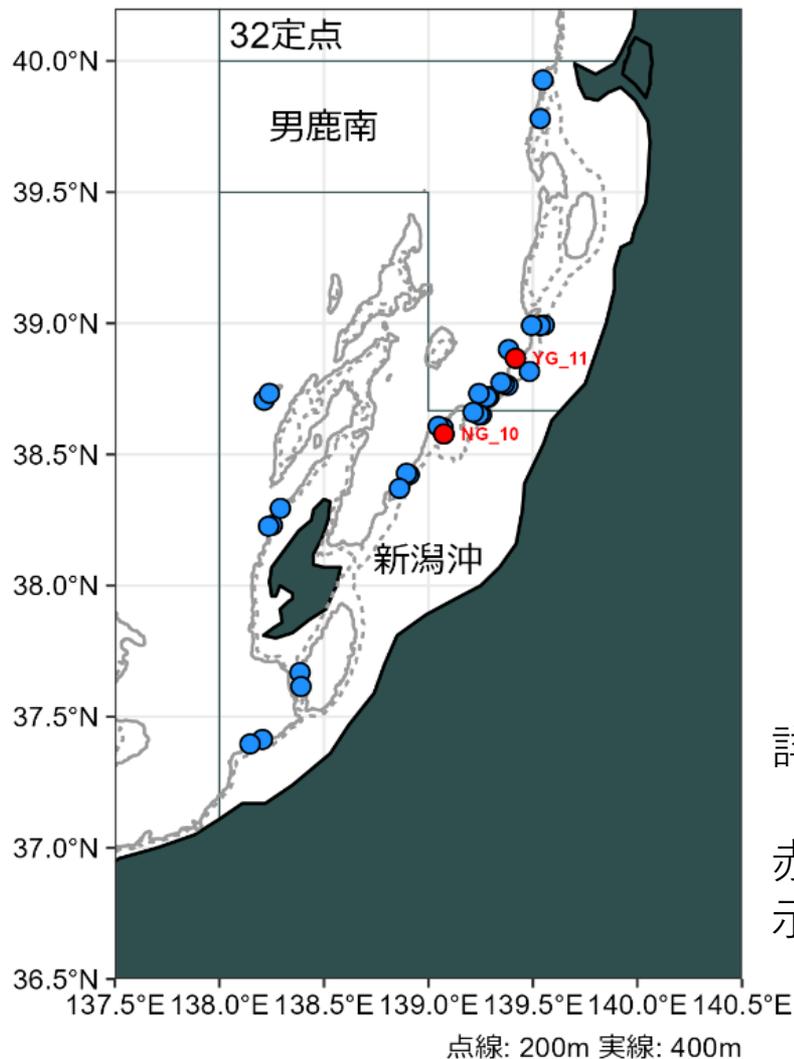
* 資源量は漁期半ばの値であり、
2022年漁期は2023年1月

図3 資源量の推移

かご調査で推定した漁期開始時点の資源量の推移を示した。雄は甲幅90mm以上、雌は成熟個体の合計を示す。



調査海域図（かにかご調査）

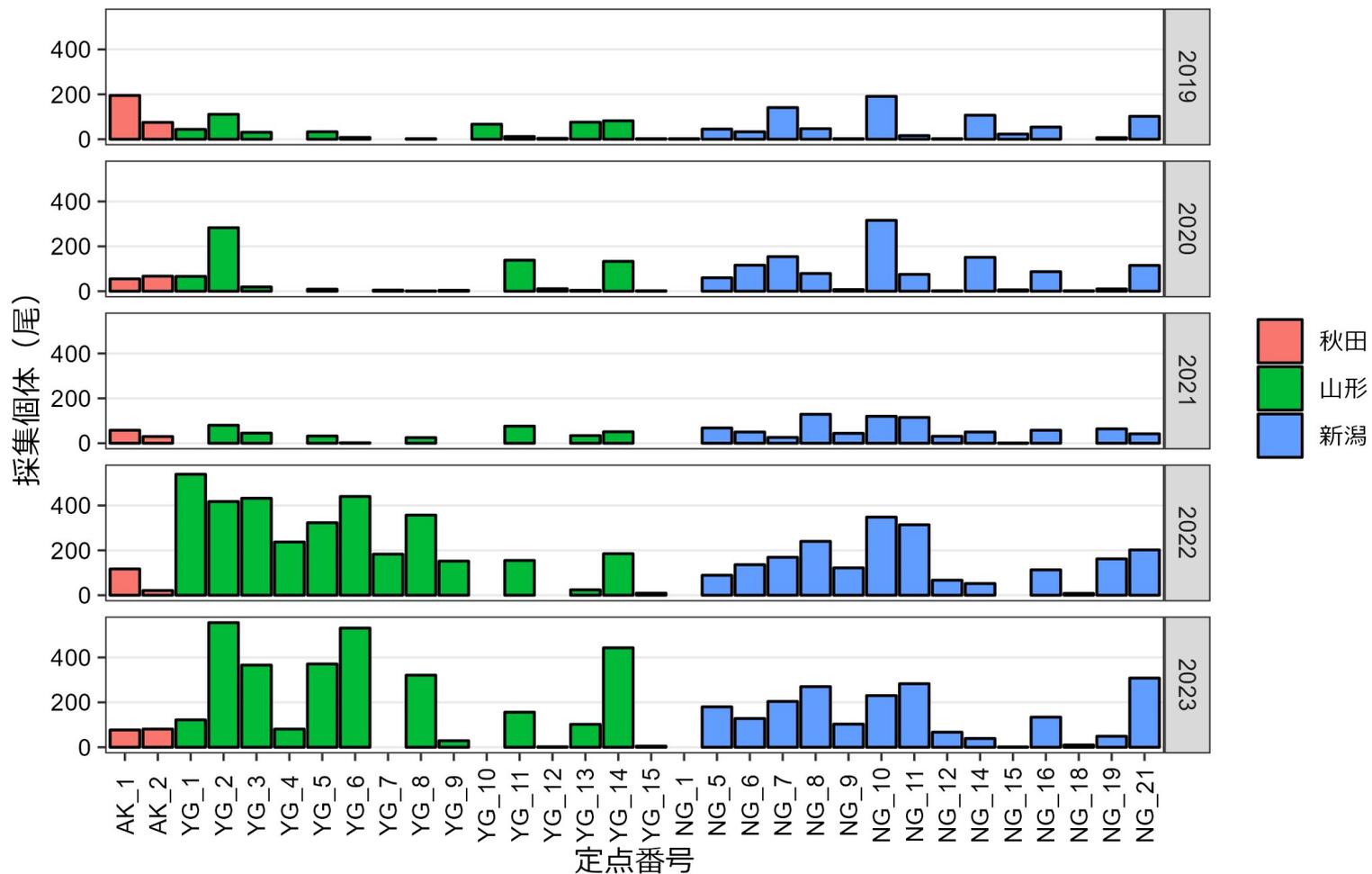


詳細版補足図2-1. 2023年かご調査の調査点

赤丸は特異点として解析から除外した定点を示す。



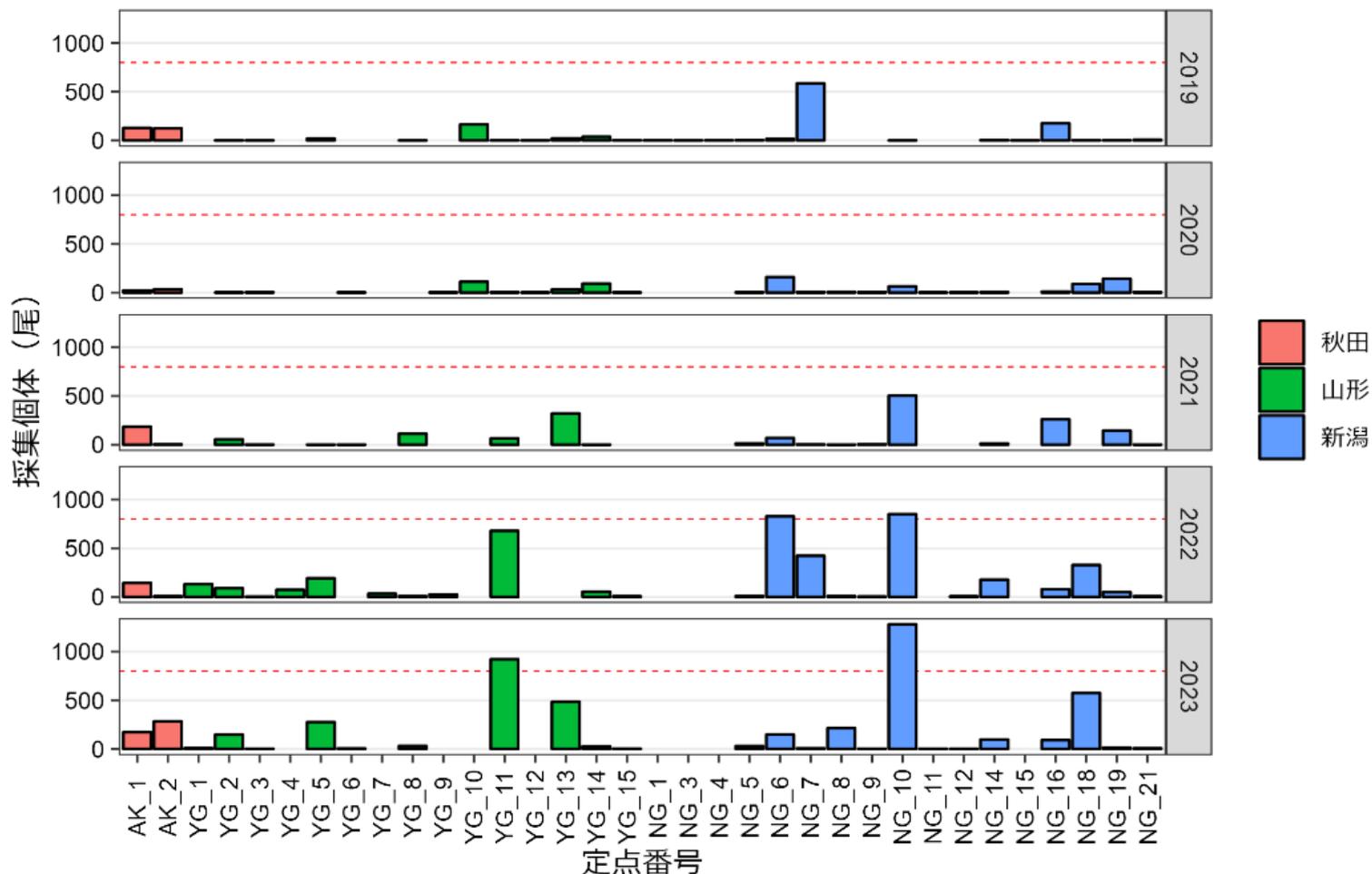
採集個体数（雄）



詳細版補足図2-3. 甲幅90 mm以上のズワイガニ雄の定点別採集個体数



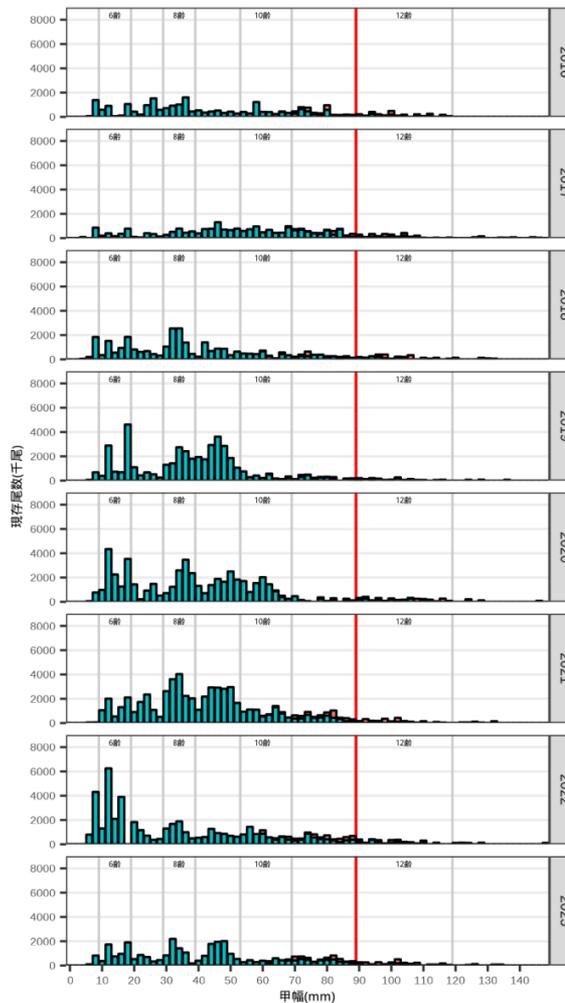
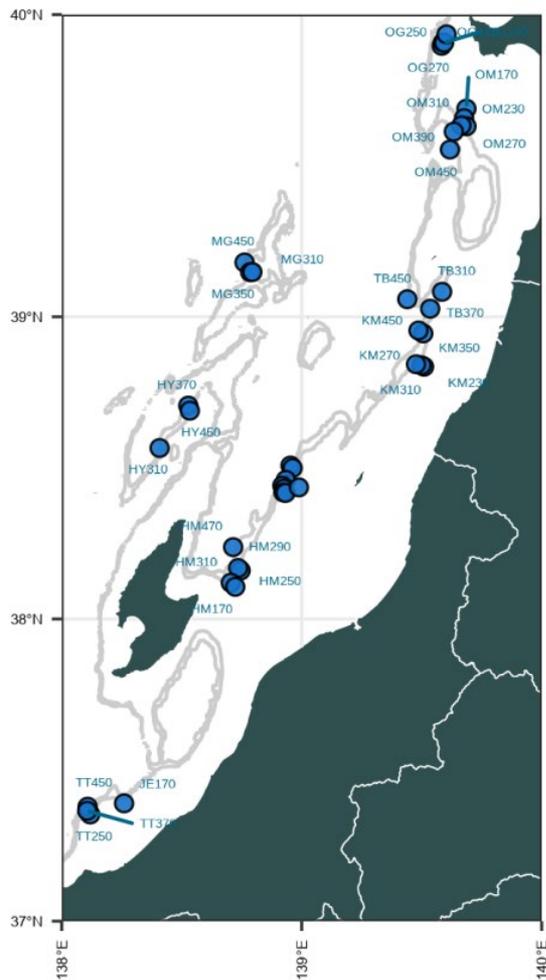
採集個体数（雌）



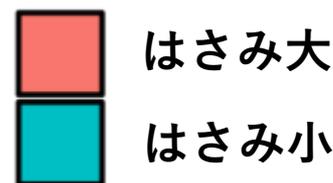
詳細版補足図2-4. ズワイガニ雌11歳の定点別採集個体数
赤破線は解析から除外する閾値（800尾）を示す。



桁網調査



雄のサイズ組成



補足図 5-1. 桁網調査の調査海域図

補足図 5-2. 桁網調査に基づく雄の甲幅組成 (2016~2023 年)
赤線は漁獲対象となる甲幅 90 mm の境界を示す。



漁獲シナリオ

令和3年3月に開催された「資源管理方針に関する検討会」および「水産政策審議会」を経て、本評価群は再生産関係が不明であるため、MSYを実現する水準の漁獲圧（ F_{msy} ）を、加入量当たり親魚量が漁獲圧が0の場合の値に対し30%となる漁獲圧（ $F_{30\%SPR}$ ）により代替すると定められた。

漁獲管理規則は $F_{30\%SPR}$ に不確実性を考慮して安全を見越すための0.8を乗じた値を用いた漁獲圧一定方策とされた。

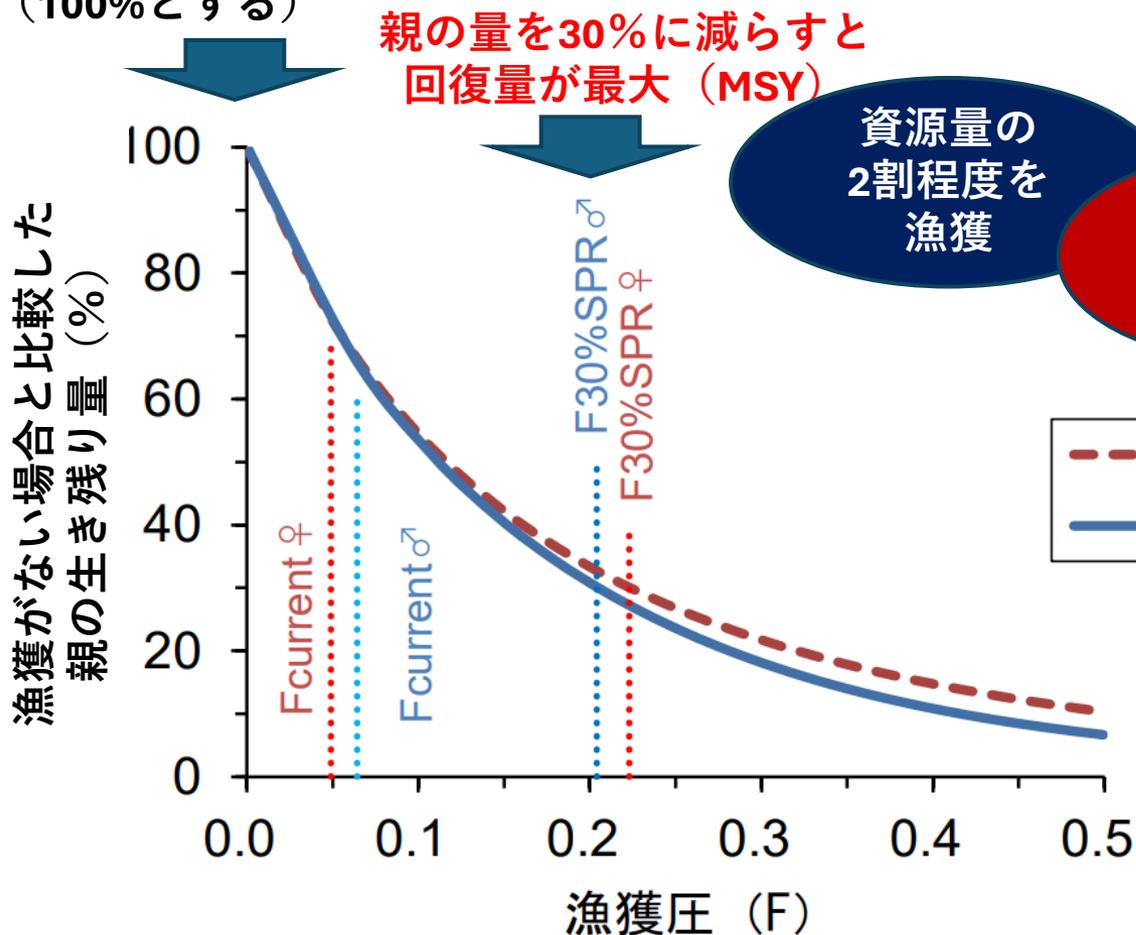
「資源量の15.6%を漁獲する」漁獲管理規則を採用



漁獲シナリオ (MSY代用値)

資源量の15.6%を漁獲しましょう

漁獲がないときの親の量
(100%とする)





2024年ABC

	親魚量 (トン)	説明
目標管理 基準値	-*	加入量当たり親魚量が、漁獲圧が0の場合の値に対し30%となる漁獲圧で達成される親魚量の水準
現状の値 (2022年漁期)	3,054	かご調査に基づき推定された雌の漁期後の資源量

* 目標管理基準値は将来予測に基づく推定値が得られるまで未設定である。

2024年漁期の資源量予測値は漁期半ばの資源量の過去3年平均値で代用

2024年漁期のABC (トン)	2024年漁期の資源量予測値 (トン)	現状の漁獲圧に対する比 (F/F2018-2022)	2024年漁期の漁獲割合 (%)
750*	4,800*	2.93	15.6

漁獲管理規則はF30%SPRに不確実性を考慮して安全を見越すための0.8を乗じた値を用いた漁獲圧一定方針とされた。
2024年漁期の資源量の予測値と漁獲管理規則(0.8F30%SPR)に基づき算出された2024年漁期のABCは750トンである。

* ABCは十トン未満を、資源量は百トン未満をそれぞれ四捨五入した値である。

*** 2022年漁期の漁獲量は258トン**

*** 2023年漁期のABCは640トン**